学校訪問

部活動

原中学校

町屋5－12－6

生徒が部活動を紹介します

卓球部

▲春・夏ともに好成績を残すために日々、努力しています

▼春休みには、卒業生や歴代のOBがコーチとして練習に参加しました

私達原中学校卓球部は、三年生13名、二年生11名、一年生10名の計34名で活動しています。毎日の放課後練習と朝練習、土・日や祝日は練習試合を行っています。

練習内容は、ラケットで球を打つだけではなく、足や腰を鍛えるために階段ダッシュをしたり、土・日はフットワーク練習もしています。

女子は関東大会出場を目指しています。1月に行われた都大会は、団体戦で第五位になりました。惜しくも関東大会には行けなくて悔しい思いをしました。

男子は、部員が全員揃うということは多くありません。しかも、練習中は集中ができず、うるさくなってしまいます。そんな時は、お互いに声を掛け合うようにしています。それでもなおらない時は顧問の先生や監督の力を借り、駄目な心構えを一掃し、集中する練習をしています。

今年は小学校からの卓球経験者四人が入部してくれました。四人以外にも入部を決意してくれた人がいます。男子は、総勢20人以上という大規模な部活になりました。

これからは、身も心も一新し、部員全員が「集中する」「楽しむ」卓球部として切磋琢磨し、春・夏の大会で結果を残せるように頑張っていきます。

執筆　男子部長　庄　博
女子部長　田中菜夢

学校自慢

尾久宮前小学校

西尾久1－4－17

学校の自慢を児童が紹介します

◀食育の授業（三河島菜の収穫）

尾久宮前小学校は、去年80周年を迎えました。

記念式典では、宮前小学校の伝統である八木節を全児童で演奏しました。気持ちを一つにし、楽しく演奏することができました。

そして、ユネスコスクールであり、食育が盛んな尾久宮前小学校の自慢は二つあります。

一つ目は、いろいろな栽培活動をしているということです。

低学年は、大根や小松菜。三年生は、大豆。四年生は、江戸東京野菜である三河島菜。五年生は、米を栽培しています。収穫した後には、自分たちで調理して食べました。三河島菜とは、一度絶滅したと思われた野菜で、宮前小でも復活をさせて、毎年種を受け継いでいます。

二つ目は、鮭の放流と鮭川村との交流です。

鮭川村との交流では、26年12月に鮭の卵をもらい3月に鮭川村に行き、放流しました。

また、鮭川小とテレビ会議でお互いの学校の良さを発表し合いました。また、鮭川村からキノコをもらい、キノコを使った給食が出ました。

僕たちの自慢の学校をぜひ見に来てください。

▶鮭の里親事業最上川の上流で放流します

執筆　冨江　仁・土井聡華
松木柱太・田村海翔

感謝の気持ちを伝えたい
釜石・唐丹中の生徒10人が虎舞を披露しました

4月17日、交流都市の岩手県釜石市から、唐丹中学校3年生10人が荒川区に訪問、迫力ある華麗な虎舞を披露しました。練習の成果を発揮し、「震災後のご支援への感謝の気持ちが伝えられてうれしいです」と笑顔で話していました。また、虎舞を目の前で見た第二峡田小学校1年生の児童は「本物の虎みたいでかっこよかった！」と目を輝かせていました。

▲感謝の気持ちが込もった虎舞に大きな拍手が起こりました

第三日暮里小のチームがドッヂビーの東海道大会で優勝！

3月1日、静岡県浜松市で開催した「第4回広域ドッヂビーコンペティション東海道大会2015」小学生部門で、第三日暮里小学校の児童によるチーム「三日ファイターズ」が優勝し、3月17日、西川区長を訪問しました。

▲西川区長（写真中央）と三日ファイターズの児童たち

あらかわ今昔ものがたり
あらかわの歴史と伝説
その92　三河島のお花畑と小川

桜の季節が過ぎて、新緑が町を彩っていて気持ちがいいね。そんな時、口ずさみたくなるのは、この歌。

♪春の小川は　さらさら行くよ　きしのすみれや　れんげの花に　すがたやさしく　色うつくしくさけよさけよと　ささやきながら　春の小川は　さらさら行くよ　えびやめだかや　小ぶなのむれに　今日も一日ひなたでおよぎ　あそべあそべと　ささやきながら

そう、「春の小川」。この歌は、大正時代の代々木（渋谷区）辺りの景色を歌ったと言われている。でもね、昔々の荒川区にもこんな景色が広がっている所があったんだよ。

ピンクの絨毯・荒木田原

町屋八丁目の都営住宅、第七峡田小学校のあたりは、江戸時代、三河島村荒木田と呼ばれていた。尾竹橋通りの荒木田交差点はここから名付けられたんだね。

荒木田には、徳川将軍家のゆかりの寺、上野の寛永寺（台東区）さんが所有していた原っぱがあった。荒木田原と呼ばれていたんだって。荒木田原は、春になるとお花畑に姿を変え、スミレやレンゲやタンポポの花が咲き乱れた。三河島村の人たちは、春を告げる草花を、将軍家や寛永寺さんにお届けしたそうだよ。また、遠足を楽しむ人がたくさん訪れて賑わったんだ。遠くからの荒木田原の眺めも大評判。特に日暮里の道灌山（西日暮里四丁目）からの眺めが良く、ピンクの大きな絨毯を広げたような景色だったそうだよ。

メダカ・ドジョウも名産

そのころの三河島村は田畑が広がる農村で、三河島菜の産地として知られていた。農業に必要な水を確保するために、あちらこちらに小さな川が流れていた。今の明治通り沿いを流れていた小川は、幅が約2メートルもあった。この川は地蔵堀の石地蔵（荒川三丁目）の元の位置、サンパール荒川（荒川一丁目）の所で二つに分かれ、一つは大名屋敷（現ジョイフル三ノ輪商店街・第六瑞光小学校付近）方面に向かい、もう一つは北上して荒川（現、隅田川）に合流した。地蔵堀とか江川堀と呼ばれ、河口の幅は5・4メートルもあったんだって。

三河島の小川には、メダカが多く見られたそうだ。江戸の動植物の本「武江産物志」に、メダカの産地として三河島があげられているよ。明治時代の本にも、美味しいドジョウやナマズが捕れたと紹介されているんだよ。きっと「春の小川」のような清らかな流れの川だったんだね。三河島の景色は様変わりしたけれど、昔の地名を訪ね、小川の跡の道路を辿り、農村時代の名残りを探してみよう。

▲石井柏亭「三河島地蔵堀」（荒川ふるさと文化館蔵）

問合せ　荒川ふるさと文化館　☎（3807）9234

古紙配合率70%再生紙を使用しています。